２　地域における読書活動の事例

＜市町村立図書館・公民館における取組＞

③「魔法書レビューブックをつくろう！」《大和市立図書館》　P14

④ブックトークの会「つじねこクラブ」《藤沢市辻堂市民図書館》　P15

⑤子ども読書まつり～中学生による読み聞かせ～《湯河原町立図書館》P16

⑥ティーンズ☆フェス 2016《相模原市立相模大野図書館》　P17

⑦図書館を使った調べる学習コンクール《小田原市図書館》　P18

⑧こども読書マラソン《厚木市立中央図書館・公民館図書室》　P19

【コラム】

移動図書館「“え”ほんふれいあいていりゅうじょ in みうらかいがん」
《三浦観光バス》　P20

絵本作家・紙芝居作家・落語家が取り組む「読絵（どくえ）ん会」
《保科琢音　氏》　P21

大和市立図書館の取組

レビューブック

③「魔法書レビューブックをつくろう！」

1　活動の概要

こども図書館カウンターにコーナーを設置。

参加希望者に「レビューブック台紙」（魔法書）、「こどもとしょかんだより」（宝石４種の印刷あり）を配付。対象は小学生。（学年は、聞き取り）

レビューブックの表紙はぬり絵になっており、自分で好きなようにぬることができる。

また、こどもとしょかんだよりから切り取った宝石を、レビューブックの表紙に貼り付けることで、グレードアップと宝石の種類によるオリジナリティを出すことができる。

大和市内図書施設の児童向け資料を対象に、読み終わった資料とレビューを持参し、１冊ごとにスタンプを押印する。ステージ条件を冊数ごとに設定し、ステージクリアするごとに景品がもらえるという企画である。図書館発行の小学生向けブックリストに載っている本を５冊以上読んだ場合は、スペシャル表紙をプレゼントしている。

2　活動の状況、実際

【取組期間】2019 年（令和元年）7月 20 日（土）～8月 31 日（土）9:00～19:00

①シリウスこども図書館カウンターで、表紙とレビュー用紙のセットをもらってエントリーする。

②読みたい本を選んで読む。（市内の図書施設にあるこども向けの本）

③レビュー用紙にレビューを書く。

④リング留められた表紙、書き終えたレビュー、読んだ本を必ずセットにして、シリウスこども図書館カウンターまでもっていき、スタンプをもらう。

表　紙

レビュー用紙

大魔法使いへの道のり

スペシャル表紙

3　参加者、指導者のコメント

指導者

- 高学年の参加が多く、子どもたちが、しっかりと取り組んでいる姿が見られた。
- 参加したその日にたくさん書いてくる子や日をおいて何枚も書いてきてくれる子どももいて、参加者それぞれのスタイルで楽しんでくれていた。

④ブックトークの会「つじねこクラブ」

1　活動の概要

2011 年（平成 23 年）に小学生向けにスタートし、８年が経過している。

「すべての子どもが本に親しむことができるまち　ふじさわ」の実現をめざして、藤沢市辻堂市民図書館で行っている取組の一つである。

小学生向けのブックトークの会を、ボランティアと共に年３回（夏休み前、秋頃、年度末）行っている。

2　活動の状況、実際

ブックトークの様子

【ブックトークの会　発足の理由】

図書館のたくさんの本の中から子どもが読みたい本を選ぶことは難しい。そこで、大人が紹介するなどのきっかけがあれば、もっと本を読んでもらえるのではないかと考えたため。

【ブックトークの実施について】

・年３回、１冊３分程度で本の紹介を実施している。

・子どもの読書への気持ちが高まるよう取り組んでいる。

【選書について】

毎回テーマを決めて、「昔から読み継がれてきた本」を中心に選書している。

【活動について】

子どもと保護者が同じ本を読むことで、保護者も「そういえば、私も読んでもらったことがある。」などの喜びを感じ、子どもと本、子どもと保護者、保護者と本がつながるような活動になっている。

3　今後の取組、目標

参加者には子どもだけでなく、保護者やおはなし会ボランティアのほか、学校図書館関係者などの参加もあり、継続的に参加する方も多くいる。

今も手探りではあるが、子どもに本に親しんでもらえるように、様々な活動を取り入れながら、柔軟に取り組んでいきたい。

4　参加者、指導者のコメント

【保護者】

ブックトークで紹介してもらった本を借りてきた子どもが、家で本を読んでとても感動していた。

【ボランティア】

原稿を作ったり、リハーサルをしたりと大変だが、自分で紹介した本を子どもが目を輝かせて聞いていたり、紹介した本を借りていったりする様子を見るとやりがいがある。

湯河原町立図書館の取組

読み聞かせ

⑤子ども読書まつり～中学生による読み聞かせ～

1　活動の概要

湯河原町立図書館では、毎年 12 月に、湯河原町子ども読書活動推進協議会の事業として「子ども読書まつり」を開催している。これは、年の近い「お兄さん」「お姉さん」が読んでくれることから、聞いている子どもたちが、よりお話の世界を身近に感じながら楽しく本と図書館に親しみ、本への関心を高めていくことを目的に取り組んでいる。

2　活動の状況、実際

〇読書まつりに参加する中学生に向け、図書館に登録している読書ボランティアの方から、読み聞かせのアドバイスを聞き、練習する。

【読み聞かせポイント】・読む速さ・ページのめくり方・本の特徴から役割読み　等

【当日の様子】中学生は落ち着いた様子で、参加者の反応をみながら、表情も豊かに読んでいた。読んでいる中学生も、読み聞かせを聞いている子どもたちも、お話の世界に入り込み、とてもあたたかく和やかな雰囲気となった。

当日の読み聞かせの様子

3　今後の取組、目標

今後も、この事業を学校との連携を図りながら、継続して取り組んでいく。

また、子どもたちが、様々な世代ともかかわり、本への関心を高めていく取組を考えていく。

4　参加者、指導者のコメント

参加者

- 中学生の読み聞かせは、とてもわかりやすく、楽しかった。
- 紙芝居のページをさっとめくるなど次の場面がどうなるのかわくわくした。お話はとてもおもしろかった。

指導者

読み聞かせのポイントを知らせると、中学生たちはすぐに対応し、本番に臨んでくれている。中学生自ら工夫した場面もあり、感心している。

相模原市立相模大野図書館の取組

地域・学校連携

⑥ティーンズ☆フェス 2016

1　活動の概要

相模大野図書館では、学生を中心とした世代間の交流や図書館利用の促進を目的として、2016年（平成 28 年）８月９日(火)に近隣の中等教育学校や大学と連携し、学生の発想を活かしたイベント「ティーンズ☆フェス 2016」を開催した。学生の企画・運営により、本を通じたイベント、体験、展示等のプログラムが行われた。

2　活動の状況、実際

会場内は、【体験エリア】【イベントエリア】【展示エリア】の３つのエリアに分かれている。

【　体験エリア　】ブックカバーづくり体験、しおりづくり体験、本探し体験

【イベントエリア】読書“怪”バトル（おすすめの怖い本を１人３分で紹介し、観覧者の多数決により最も怖くなった本を決定する）

【　展示エリア　】10 代向けおすすめ本の展示、POP 大賞投票コーナーの設置、市内の高校・大学等のパンフレットの設置、参加者の意見を掲示するボードの設置など

イベント当日の入場者数は 51 人（内訳：子ども 33 人、大人 18 人）であった。

体験エリア

イベントエリア

展示エリア

3　今後の取組、目標

次年度以降に、中高生有志によるテーマ展示や広報誌の発行、大学生による相模原市立図書館でのテーマ展示などの活動につなげることができた。10 代主体のイベントを継続的に催したい。日常的に図書館を利用するYA（ヤング・アダルト）サポートスタッフづくりをしていく必要性を感じた。

4　参加者、指導者のコメント

【参加者】

毎年恒例のイベントにしてほしい。おもしろかった。

【指導者】

学生スタッフが主体となり、イベントを運営できたことは大きな意義があった。

小田原市図書館の取組

調べる学習コンクール

⑦図書館を使った調べる学習コンクール

1　活動の概要

小田原市では、2016 年度（平成 28 年度）から市内在住・在学の小学生を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」の事業を行っている。応募期間は夏休み期間が中心となっているが、コンクールの応募に向け「調べる学習チャレンジ講座」を設けて、テーマ設定の仕方から本の探し方や調べ方、まとめ方のポイント等を学べるようにしている。同館のコンクールは地域コンクールとして位置づけられており、上位入選作品は全国のコンクールに推薦している。

2　活動の状況、実際

【調べる学習チャレンジ講座の様子】

①講師から作品の作成の仕方や図書館の使い方について学び、活動を行う。

②参加者はテーマが決まると、様々な本を見比べて調べる。

【参加者の様子】

１、２年生は保護者とともに、一緒に本を探したり、本を読んだりしている。

３～６年生は自分で本を探し、講師に質問をしながら、まとめ方にも力を入れ、作品を仕上げていた。

【講座後】

図書館で調べたことをきっかけに、実際に実験したり、調理をしたり、インタビューで取材をしたりして活動が広がり、自分の思いや考えのまとめ方も工夫された作品が応募されていた。

3　今後の取組、目標

チャレンジ講座の様子

現在、地域コンクールは、小学生の部のみの開催となっているが、全国のコンクールでは、小学生のほかにも中学生、高校生、大人、子どもと大人の部を開催している。今後は、それらの部門についても PR し、図書館を使って調べることが、子どもから大人まで幅広い世代の方の習慣になるようアピールしていきたい。

＊地域コンクールで開催していない部門は全国のコンクールへ個人で申し込める。また、地域コンクールからの推薦作品は3次審査から参加できるようになっている。

4　参加者、指導者のコメント

参加者

- 本によって同じことでも様々な書き方が発見できました。一緒に本を探したり、読んだりして楽しかった。（保護者と講座参加）
- 作品をみて、おもしろそうなテーマがいっぱいあった。実際に自分も調べてみたいなと思った。

指導者

- この事業から、気軽に本を使って調べたり読んだりすることの一歩が築ければと思う。
- 日常の事柄や様々な場面からも本への関心を高めてほしい。

⑧こども読書マラソン

1　活動の概要

読書のきっかけづくりや読書意欲を高めるとともに、中央図書館及びオンライン・ネットワークシステムを結んでいる９つの公民館図書室、移動図書館の利用促進を目的としている。

秋の読書週間開始日の 2018 年（平成 30 年）10 月 27 日(土)から 2019 年（平成 31 年）3 月 31 日(日)まで実施。

2　活動の状況、実際

【対象】0～12 歳を対象とし、保育所・幼稚園等や小学校を通じて「読書大好きあつぎっ子読書通帳」を配付した。

【実施時期】読書週間に合わせて実施（10 月下旬～3 月末）

【参加方法】20 冊記入済の「読書大好きあつぎっ子読書通帳」を、中央図書館及び公民館図書室、移動図書館へもっていくと、新たな「プレミアム読書大好きあつぎっ子読書通帳」（60 冊記入可能）を、以降は 10 冊ごとにスタンプ押印とプレゼントを渡した。

さらに、おすすめ本紹介カードを書いて、中央図書館等に提示。

20 冊読破し、「プレミアム読書大好きあつぎっ子読書通帳」に進んだ方は、403 人だった。

3　今後の取組、目標

今後も乳幼児期から読書活動を推進するため、保育所・幼稚園等を通じて啓発パンフレットや「読書大好きあつぎっ子読書通帳」を配付する。小・中学校を通じて、推薦図書リストや図書館利用案内等を配付していく。

4　参加者、指導者のコメント

【指導者】

親子や小学校低学年の参加が多くみられた。小学校の中学年から高学年の参加につながる工夫も必要だと思う。

【コラム】

移動図書館「“え”ほん ふれあい ていりゅうじょ in みうらかいがん」
三浦観光バス（一般社団法人「うみとやまのこどもとしょかん」との共同企画）

本にふれる機会を子どもたちに提供しようと、月１回のペースで、同社が駐車場や観光バス、スタッフを無償で提供している取組である。

「営業時間外の観光バスを有効活用して、走ること以外に地域貢献したい。」同社が、移動図書館を試験運行していた一般社団法人「うみとやまのこどもとしょかん」と共同で企画した取組である。一般的な図書館とは異なり、声を出したり会話をしたりしながら本を読めることが特徴である。地域住民を中心とした利用者がコミュニティ形成の可能な「図書館」にしたいと、黙読する「よむよむ号」と、音読・読み聞かせが可能な「わいわい号」とを用意し、利用目的に合わせ、分かれて乗車し、読書を楽しんでいる。

児童書や絵本約 500 冊を載せた移動図書館「うみやま号」が同社を訪問し、会場を訪れた親子連れは、それぞれの目的に合わせて、同社駐車場に置かれたバスを選び、移動図書館から気に入った本を車内に持ち込んでは思い思いに本とふれ合っている。

「わいわい号」

「うみやま号」

現在は、三浦市の三浦観光バス駐車場で継続を合言葉に毎月実施しているが、今後は、地元だけでなく、他地域でも「本の停留所」を持続的に展開していきたいと考えている。2019 年（令和元年）11 月には、よこすかポートマーケットにて初の他地域開催を行った。

参加者の母親からは、＜「市内は書店や図書館の蔵書が少ないので、子どもが本に親しむいい機会」＞（神奈川新聞より）との声も聞かれた。

【コラム】

絵本作家･紙芝居作家･落語家が取り組む「読絵(どくえ)ん会」
保科琢音（ほしなたくお）氏

絵本作家、紙芝居作家、落語家と多岐にわたる活動をされている保科琢音氏が、2019 年（令和元年）7月～8月に横須賀美術館で「読絵ん会」を開催した。絵本作家せなけいこさんの展示会内で行われ、自作の絵本と紙芝居を使った「読み笑わせ」、更には、せなけいこ著の落語絵本とその絵本のモチーフとなった古典落語が演じられた。「読絵ん会」に向け保科氏は、＜「落語の良さ、絵本の良さ、せな先生のすごさを伝えたい」＞＜「どんなに難しいテーマも笑いがないと記憶に残らない。どこまで笑わせられるか挑戦したい」＞(神奈川新聞より)と述べられた。

保科氏はこれまでに保育園や幼稚園、子育て施設や小学校、図書館や科学館、病院や乳児院等、様々な場所で「読絵ん会」を開催している。落語家としても活動されており、大人や高齢者の方へ向けた口演も多く開催されている。保科氏はどんな世代の人も、どんな立場の人も、障がいのある人も、国が違う人も、自作の絵本や紙芝居、ときに落語を使ってみんなそろって笑える空間をつくりたいと考えられている。だから「読絵ん会」は、読み聞かせではなく「読み笑わせ」なのだ。

＜保科琢音さん略歴＞

公立図書館に 10 年間勤務。2013 年（平成 25 年）絵本「あっかんべー」を出版。絵本や紙芝居の創作のほか、「読絵ん会」と名付けた「読み笑わせ」口演をこれまで 600 か所以上で開催。

2017 年（平成 29 年）からベトナムでの口演も開始。

絵書家筆之輔(えかきやふでのすけ)の芸名で、落語家としても活動。定例落語会の開催や、横浜市内の小学校で落語の授業を数多く担当。2019 年（令和元年）には新たな出版方法「声援出版」を考えて、絵本「ままも」を出版。